



はじめに

若葉の芽吹きと共に新年度を迎えました。皆様にはご健勝にお過ごしのことと思います。

今回の会報紙「アクト」は3月29日(土)に開催しました第12回九博デー「文化を未来に伝えるために・・・」を特集いたしました。

今年の九博デーのテーマは、多くの貴重な文化遺産・史跡に囲まれた私たちの地域として、文化また文化財に対するこれからの動向を知り、あるべき方向性を探りたいという思いを込めたものです。また九博の保存と修復への取り組みから学ぶことも多いかと考え、パネルディスカッション・講演・ビデオ上映・バックヤード見学と盛り沢山の内容となりましたが、多くのご参加を得てすばらしい記念の日を記すことができました。有難うございました。

今回の収穫として次のようなことが挙げられると思います。

- 第12回にして、初めて九博と共催という形で九博デーを開催したこと
- 今回は会員だけではなく、一般の方への公開の案内という形で実施できたこと
- 丸一日をかけて、総論から各論へと文化を未来に伝える貴重なお話を伺い、私たちの方向性を示していただけたこと

パネリストの方々にご教示いただいたことを今後の活動に生かしていきたいと思っております。

第1部 パネルディスカッション「文化を未来に伝えるために・・・」(要約)

パネリスト 亀井伸雄(文化庁文化財鑑査官) 味酒安則(太宰府天満宮文化研究所主管)
三輪嘉六(九州国立博物館長) 前田和美(九州国立博物館を愛する会理事長)
コーディネーター 林田スマ(大野城まどかぴあ男女平等推進センター所長)

パネルディスカッションは午前10時より前述の出席者で始められました。紙面の都合上、一部抜粋要約し敬称略で掲載いたします。



- 林田** おはようございます。まず「九州国立博物館を愛する会」理事長前田和美さんに今日の催しを開催された思い・主旨についてお話を伺いたいと思います。
- 前田** 九博は開館以来、皆様のご努力によって他の博物館にない活況ではありますが、今回はそのような表の顔ではなく、九博のもう一つの大きな仕事である文化財の研究・保存・修復などのバックの仕事に焦点を当て、博物館に対する理解をより深めると共に、私達市民は博物館と今後どのような関わりの中で活動を展開していけばよいのかを考える端緒になればと思っております。
- 林田** ありがとうございます。次に文化庁のお立場から、あるいは東京から見た九博について、文化財鑑査官亀井伸雄さんからお話を伺います。
- 亀井** 九博は地域との連携を大切にしている大きな成果をあげています。この新しい博物館のあり方が他の奈良・京都・東京などの博物館に大きな影響を与え、他の博物館でも最近様々な地域との連携の試みが行われるようになり、博物館の敷居は低くなりつつあります。これも九博が風を起しているおかげだと言えるでしょう。
- 林田** それではここで亀井さんに日本の文化財行政の現状について、さらに文化庁の文化財に対する今後の取り組みについてご説明いただきたいと思います。
- 亀井** いささか硬いお話になるかもしれませんが、文化財は文化財保護法により保護されており、有形・無形・民族・記念物・景観地・伝統的建造物の6つの分野に分かれています。昨今文化財の保護のあり方も保存から活用へと大きく転換してきており、身近にある文化財に親しみをもち、点ではなく地域全体の面として活用していただくために都市計画・観光・産業振興など、市民と連携した取り組みや、多くの文化財に関わる人材の確保が必要になっております。そのために、行政だけでなく市民やボランティアまたNPOなどとの協働が不可欠で、具体的な施策として次世代を担う子供たちが文化財の知識や体験を通して育成され、文化財保護に関する地域のシステムの充実が期待されます。
- 
- 林田** ありがとうございます。太宰府がそのような文化庁の試みのモデルケースになるといいですね。次に味酒主管にお伺いします。太宰府天満宮にも有形無形の文化財が数多くあると思いますが、文化財の種類、件数と長年にわたりそれらを伝えてこられたご苦労や工夫についてお聞かせ下さい。
- 味酒** 天満宮には1,385点の国宝や重文があります。また境内の2本のクスノキは天然記念物に指定されています。現在約50本のクスノキが境内にありますが、参拝のお客様に踏み固められた土のために酸欠状態に陥り10年前に約1億円かけて土を入れ替えました。当天満宮は変わったところがあり、普通は文化財を見せたがらないのですが、すでに明治6年には「太宰府大博覧会」を開催し、昭和3年に「宝物殿」を設置し積極的に文化財を公開しています。「宝物殿」は福岡県で最初の博物館です。ただ当時はお粗末な保存の現状でした。公開することは傷みを伴うものですが、今では公開することで傷みをいち早く発見し修理できるようになりました。そういう意味で公開することは大事なことです。これまでは修理は京都まで持っていきましたが、今では文化財保存・修復の殿堂九博があります。言ってみれば文化財の総合病院がお隣にあるようなものです。
- 
- 林田** ありがとうございます。先ほど亀井さんが文化財・史跡の保存は点ではなく面で捉えるべきだというお話がありましたが、太宰府の史跡の保存、面としての保存の考え方をかかって太宰府の史跡のお仕事をされた経験もお持ちの三輪館長に伺いたいと思います。三輪館長如何でしょうか？

三輪 この博物館は皆様の熱い支援をいただき開館2年半で入館者 452 万人に達しました。500 万人を達成したら盛大なパーティーを開きたいと思っております。今後も皆様の思いを博物館がどう反映できるかと考えています。



日本の文化財の保存は明治 30 年の古社寺保存法から始まります。それからずっと 20 世紀いっぱいまではどちらかというと保存を中心に考えていました。しかし今は先ほど亀井鑑査官が言われたように文化財は保存から活用の時代に入っています。昭和 44 年頃でしたか、私は「太宰府の保存問題は将来の大きな課題だから調査して来い。」と言われ都府楼団地あたりを発掘調査しながら、太宰府は壮大だなと思いました。具体的に史跡が何とかでなく周辺の雰囲気や景観も文化財なんだという事を強く感じました。そういう観点で太宰府を見ると、面で捉えないとここの史跡の良さは解らない。史跡の在る所だけを保存して太宰府を検証しようとしてもそれだけではもたない。本来の範囲の全体を捉えて保存していきたい。実はその典型がここ太宰府の政庁、大野城、観世音寺、日本最初の学校跡と言われる学校院などなのです。まあそういうのをとにかく面で捉える。点から面への保存なんですよね。その面への保存と言う事が活用ということを考える時に人々の生活の中に取り入れられ活かされてゆく事になる。より市民のための文化財、市民の憩いの場とできる文化財という事です。

この博物館も将来太宰府・九州の景観になりたい、そういう景観になるよう私達も努力しますが、皆様にも応援していただきたい。いかに市民に愛されるかという事がこの博物館が全国区になることの一番基礎的なところですよ。

私はよく浦安のデズニーランドを例に出すのですが、ご存知の通りデズニーランドは全国区どころか国際的な広がりを持っている。そのデズニーランドが何を一番に大切にしているかと言うと来るお客様もそうですが、それは浦安市民なのです。浦安市民のなんと 62%が年間 8 万円もするパスポート会員なのです。市民が市民の誇りとして支えている。この博物館もまず市民に愛される事だと思います。おそらくその愛が波紋のように同心円状に広がっていくことが国際的にも信用され愛されることに繋がると思います。本当に皆様のお力に支えられているという思いを強く感じています。

林田 とても解りやすく頭の中が整理できたような気がします。やはり夢を語る方の横顔は素敵だなと拝見しておりました。また、聞いていらっしゃる皆様もまるで三輪館長と話していらっしゃるようになさかれています。これがやっぱり一方通行ではない文化財を真ん中にした私達と博物館の関わりがきれいに双方向で動いているんだという事を私は今この会場で実感いたしました。



九博ができる時に館長が確か「教科書より解り易く学校より面白い」というキャッチフレーズをお作りになりました。正にこれがすごく大事な事ではないかと思えます。今までのともすると好きな人だけいらっしゃいという姿勢でなく皆さんいらっしゃい、どんな人でもいらっしゃいというこの博物館の姿勢が私達を引き付けているのだと思えます。

さて亀井鑑査官にもう少しお話を伺いたいと思えますが、亀井鑑査官は町並みの保存や世界遺産に関しても深いかかわりを持っていらっしゃいます。太宰府には「まるごと博物館」構想というものがあります。広域にわたる文化財の保存について沢山のご経験の中から実際にどのように進めて言ったらいいのか、その課題などもお示しいただければと思えます。

亀井 町並み、すなわち生活の場を文化財として捉え保存し継承していくのは非常に困難な作

業です。これはそこに住む住民の皆さんの理解なしにはありえません。スタート時点から住民の方を巻き込み行政を中心とした住民の合意形成のしかけが必要です。そして、その文化財の活用はその住民の方々と共に考えていかなければなりません。文化財の範囲が広くなればなるほどそれら住民の方の協力がなければとてもできる事ではありません。

私は参道を歩く時茶店の屋根を見ながら歩きます。すると意外に古い建物があります。これを何とか前面に出すような改修というんですか、余計なものを取って素顔を見せてそれでもってもう一度街を考えてみたらどうかと思います。また太宰府駅から観世音寺・政庁跡・水城と続く歴史の位置づけができれば歴史街道という広がりが出る。その中で太宰府はこのような歴史を辿って現代までどう変わってきたのだと、じゃこれからどうしていったらいいのかと、所謂まちづくりの観点からも新しい取り組みが生まれてくるのかなあと思っております。歴史は古代から現代まであり、色々な切り口で色々な方が参画できるような仕掛けを、行政を中心に形成し、市民・博物館と三位一体となった活動が展開できれば、全国に先駆けた歴史と文化財を中心としたまちづくりのモデルケースに成り得るなど思っております。

林田 私はどこの梅ヶ枝餅が一番美味しいやろかと下ばかり見ておりました。

地域のコミュニティがどう動いていくか、一人ひとりが自分の町にどう関わっていくか、やはり文化のエネルギーのある町は素晴らしいと思います。それではもう一つ別の視点からひとつづくり・まちづくりについて味酒さんお願いします。

味酒 ひとつづくりという観点から申し上げますと、一口に言って日本の博物館には若い人が殆ど来ていない。先日「愛する会」の中国視察で上海博物館に行きましたところ、そこには高校生・大学生の若いカップルが多勢おられるんですね、日本の場合は高校生や中学生を殆ど見ない。学校教育と博物館の連携がいま一つ巧くいっていないような気がするんですよ。子供たちが文化財に関心を持つ、そして見て感知して感動する。この感動が未来永劫に文化財を守ることになるんじゃないか。子供たちが博物館に親しみを持つしかけが必要なんじゃないかなと思う訳です。昔、私がお見合いをしたときどこかに行きましようという事で九州歴史資料館に行こうと言ったらすぐに断られましたね。ですから、若い人達の博物館に対する考え方を変えなければ将来は無いのではないかと思うのです。

林田 横へ広げる面と縦に広げる事をお話いただきました。お見合いをされたと言うことですが、九州国立博物館だったらきっと巧くいったんではないかと思えます。先ほど亀井さんから市民の協力が必要なんだと言うお話がありましたが「愛する会」の前田理事長にこれからの活動について伺いたいと思います。

前田 今日は各先生方から多くのサジェッションを戴きました。点から面へ、保存から活用へ、また次の世代にしっかりと引き継いでいく。ひとつづくりこそまちづくりだという思いで若い人達と一緒に様々な活動を通して九博にどしどし提案をしていきたいと思えます。



林田 ありがとうございます。そうですね、誰かがやってくれるだろう、どこかが決めてやるんだろう、そうじゃなくて市民一人ひとりの皆さんがどう声を出していかれるか、コミュニケーションの場を広げていけるのかということがとても大事なことだと思います。それでは三輪館長、若者という部分でこれから博物館としてどうアピールしていращいやるか、「あじっば」も含めてお話を願えますか？

三輪 いわゆる教育普及と言う流れは日本には殆ど無かったんです。昭和 26 年の博物館法が

できてから意外にもどこも取り掛かっていない。私は、文化財は人が支えるものだと思います。未来を支える若い人達がこれからの文化財を担ってくれる、そのためには教育普及が大事である。だから「あじっば」を一番目に付くところへ置きました。これまで博物館は“親が子供を連れてくる”場所、これからは“子供達が親を連れてくる”場所にしたい。この博物館の「定礎」という文字は地元の当時中学2年生に書いてもらった。その思いは2つあります。1つは市民と共にある博物館の象徴にしたい。あと1つは、若い人の育つ場所にしたい。この思いをしっかりと実現しようと思っています。

もう1つの背景はミュージアムエデュケーター。これまで博物館を支える教育的な人材を育てる機関が無かった。子供達を博物館や美術館でしっかり教育しようといった根本的なところが意外とされていない。それでこの博物館が刺激を与えていきたいと思っています。宿題にさせていただいて頑張ります。

林田 ありがとうございます。それでは最後にお一方ずつ手短に今日おいでになった皆様にメッセージをしていただいております。

亀井 若い人を博物館へ。どうかお子様やお孫さんを少々敷居が高いようなところでもどんどん連れて行っていただいて、自ら率先して親の姿を子供に見せるような形で、文化財と接することは人生を豊かにするという事を、身をもってお示しくださるようお願いいたします。

味酒 一番足りないものは美育だと思います。美学、美しいものを美しいと言える子供が少なくなりました。内容がわからなくても美しいものを見てそこからやさしさとか思いやりとかの心が育つような気がします。どうかお子様を連れて博物館にお越し下さい。

三輪 私は文化財というものは心の豊かさを育むものと信じております。ですからこの博物館をお見合いが成立できるような博物館にしたいと思っております。

前田 本日は本当にありがとうございました。これからも「愛する会」と共に、ひとづくり、まちづくりを積極的にやっていきたい、そして文化を未来に伝える活動をしていきたいと思っています。

第2部 講演「国宝修理の現場から」～九州国立博物館修理技師の取り組み～（まとめ）

講演者 鈴木裕（国宝修理装こう師連盟九州支部技師長）

最初に、スライドによる九博「修復施設」の紹介がありました。修復施設は、4室ありその1～3室が鈴木裕さんの職場。鈴木裕さんの修理されている文化財は主に絵画、書跡などの美術工芸品、掛け軸や屏風、巻物など。画像で室内の机や棚や道具などの説明があり、その備品の1つに冷蔵庫・洗濯機などもありその使い方の詳しい話をされました。



次に、『プロフェッショナル～仕事の流儀』を担当されたNHK福岡支局の落合ディレクターの話がビデオ映像で流され、鈴木裕さんの人となり紹介されました。落合ディレクターとは取材の間2ヵ月半にわたり多くの時間を一緒に過ごしたが、やらせなど一度もなく、鈴木さんの文化財修復にかける思いをよく受け止められたとの事でした。

次いで「九博」のことを耳にしたのは4年前から。一度、旅行で天満宮にお参りした時、建設中の九博を一度見てみたいと立ち寄ったが、無理ですとあっさり断られ、がっかりした記憶があるとの事でした。その後、鈴木さん所属の「国宝修理装こう師連盟」から、内々に、九州で新たな形で工房を設立するので手伝ってほしい旨の打診があり、優柔不断な性格の鈴木裕さんを即決させたのは、九博の保存に対する姿勢やシステムに感銘した為とのお話でした。

「国宝修理装こう師連盟」とはどういう団体かというお話もありました。現在、全国に 10 箇所の工房、鈴木さんのような技術者は全国で 130 名近くいるとのこと。昔は一工房ずつで交流がなかったが、近年連盟を結成し少しずつ交流が始まってきた。『平成 16 年、九博の修復施設に連盟が取り組んだのは、まさにこのような新しい取り組みが始まろうとしていた時で、三輪館長の意向でもあった一工房に託すのではなく国立の博物館にふさわしく、新しい形で日本の最高の技術者を理想のシステムで取り掛かるという画期的な取り組み、博物館科学科の藤田室長と本田課長の日本で一番の修復施設を作るんだと言う思いを受け、この施設は始まりました。』鈴木さんが九博行きを決断したのは、この九博の姿勢とともに装こう師の古い体質を打破したいという思いもあったように感じられました。

次に『王逸墨跡』の修理工程がスライドで紹介されました。鈴木さんが他工房の若い技術者に文化財修復の心を伝えようとするところは胸を打たれました。これは、九博で『博物館と文化財修理展』が 5 月 13 日から 6 月 22 日まで催されますが、この時に鈴木裕さんたちの三年間の仕事の成果の 1 つとして発表されます。是非見ていただきたいとの事でした。

2007 年 12 月 4 日 NHK テレビ放送『プロフェッショナル 仕事の流儀』より鈴木裕さんの言葉・・プロフェッショナルとは『毎日同じ慣れた仕事であっても、いつもこう、新鮮な気持ちで向かいあえる、新鮮な気持ちで仕事出来る。そういった人がプロフェッショナルじゃないかと思います。』さらに講演の最後に『日ごろ思っている事です、現場で私のような立場は、ともすると一番保守的なところになければ安全な舵取りが出来ないと思いがちなんですが、そうではなくて、指導者こそ最先端、最前線にいるんだという自覚と実際にそうあろうと努力していることが大事なんだと思います』こう話された言葉に、鈴木裕さんの指導者としての覚悟と伝えたい事が凝縮されているように思いました。

皆様のアンケートの貴重なご意見を一部掲載させていただきました。

- 林田さんの進行がうまく、パネリストの方々のキャラクターがよく出ていて(みんな違って、みんな良い!)とても楽しい。そして、皆様のアツイ思いが伝わってきた時間でした。無料で聞けた(落語より楽しい)トーク有難うございました。学ぶことがたくさんある博物館の魅力を若い人たちに伝えていきたいと思います。
- 普段聞けないお話、しかも大変貴重なお話を伺い大変役に立ち有意義でした。とても良い企画だったと感謝致しています。亀井先生のお話とレジュメとてもよかったです。貴重な資料として今後の学習に利用させていただきます。
- それぞれの先生のお話がよく理解でき、益々地元が好きになり、(地元の)発展になるように協力できたらと思います。
- 大変良い企画だが、若者も気軽に参加できる内容の企画もしたら良いと思う。今後も参加させていただく。
- 第 1 部のパネリスト及びコーディネーターの話はとてもわかりやすかった。鈴木裕さんの話は大変有意義でした。



◀ 九州国立博物館 イベント情報 ▶

開催日	時間	その他 条件	もよおし	会場	問合せ (※注1)
開催中～ 6月1日(日)	13:30～17:00 (月曜休館)	申込なし	「国宝 大絵巻展」	九州国立博物館 特別展示室	A
4月26日(土) ～30日(水)	9:30～ 17:00	申込なし	「昭和の日」イベント	九州国立博物館 エントランスホール	A
4月27日(日)	13:00～	要申込	特別展記念講演会 「描かれた物語—絵巻の 世界」	九州国立博物館 ミュージアムホール	B
5月4日(日) ～6日(火・祝)	12:30～ 15:30	申込なし	福博職人の手技展	九州国立博物館 エントランスホール	C
5月10日(土)	13:00～	要申込	特別展記念講演会 「絵巻の魅力—物語の 楽しみ方」	九州国立博物館 ミュージアムホール	B
5月11日(月)	①13:00～ ②15:00～	申込なし	きゅうはく ミュージアムコンサート	九州国立博物館 エントランスホール	A

(※時間、場所、内容等が予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。)

- ※注1：A・九州国立博物館ハローダイヤル 050-5542-8600
 B・西日本新聞イベントサービス 092-711-5491
 C・博多伝統職の会 092-711-4352



◀ 特別展 の 年間計画 ▶

平成20年7月12日(土)～8月24日(日) 予定

『島津の国宝と篤姫の時代—東京大学史料編纂所 20万点の世界—』

平成20年9月23日(火・祝)
～11月30日(日) 予定

『国宝 天神さま—菅原道真の時代と天満宮の至宝—』

『九州伝統工芸展』(仮称)

平成21年1月1日(木・祝)
～3月15日(日) 予定

皆さん！ご存知でしたか？

九博には、貸し出し用のベビーカーや車椅子があります。小さいお子さんのいらっしゃる方から、ご年配の方まで皆さんにできるだけ楽にゆっくりと楽しんでいただきたいという思いのようです。また授乳室もあるんですよ。安心して授乳したり、オムツを替えたりできます。貸し出しの受付は総合案内です。

このたび九州国立博物館では、日本が誇る絵画と物語の総合芸術である絵巻の優品を展示いたします。

絵巻とは、物語を描いた絵を巻物にしたもので、我が国において豊かに花開いた美術の代表です。その画面はただ美しいだけでなく、いにしえの人々の切なる想いを今日に伝え、ときに奇想天外な物語や、絵と詞の絶妙なコラボレーションで見る者を楽しませます。

この展覧会では、明治30年(1897)に開館し京都に関わる文化財を公開してきた京都国立博物館の企画協力を得て、同館の所蔵品および寄託品のうち奈良時代から室町時代までの国宝9件・重要文化財14件を含む名品26件、あわせて約150場面を展示いたします。

これらの絵巻は、美を好む宮廷の貴族によって集められたものや、高僧や社寺の物語を伝え洛中の神社仏閣で大切に護られてきたものばかりです。そのため本展は、京都という千年の都に咲いた伝統文化の精華をご紹介する絶好の機会になると言えましょう。

さて絵巻は本来、手で触れて画面を開いてみるものですが、本展では、この鑑賞方法を実感していただくために展示やカタログにいくつかの工夫をこらしています。

まず展示では、手で触れんばかりの距離で絵巻を見ていただくために展示台を新調し、作品をケースのガラスに可能な限り近い距離に展示しました。また次々と画面を進めて巻末にいたる鑑賞方法を体感できるよう、会場に「体験コーナー」を設置しました。展示室では残念ながら絵巻はガラス越しにケース内に置かれ動くことはありませんが、皆さまには自分の手で順番に画面がひらかれて物語が次々と展開する巻物の姿を思い起こしていただき、想像力を駆使して絵巻の魅力を感じていただければ幸いです。さらに当館の大きなケースを最大限に生かして、いくつかの絵巻では作品の全画面が見られるように展示を行っています。例えば挿図に掲載した華嚴宗祖師絵伝(京都・高山寺蔵)の義湘絵第二巻も、長さ12メートル65センチにおよぶ画面をすべて公開いたしております。

またカタログには、絵巻を横長に掲載するための折り込みページを作りました。また絵巻に関する豆知識が満載の「コラム」なども掲載し、内容も豊富になっております。図版も、ページをめくるたびに絵巻の美しさを楽しむことができる素敵なデザインとなっておりますので、ぜひお手にとってご覧下さい。

絵巻に焦点をあてた大規模な特別展としては九州で初めての開催となる「国宝 大絵巻展」。この展覧会を通じて、来館者の方々に文字通り絵巻を身近に感じていただき、美術と文学の織りなす魅力的な世界を心ゆくまでご鑑賞いただければ幸いです。



挿図 国宝 華嚴宗祖師絵伝 義湘絵第二巻 部分(京都・高山寺蔵)【前期】

《 お知らせ 》

展示替えについて

会期中に前期・後期でほとんどの作品が入れ替わる大規模な展示替えを予定しております。また、一部の作品については週単位で巻き替えを行います。どうぞご了承下さい。

【前期】

3月22日(土)～4月28日(月)

【後期】

4月29日(火)～6月1日(日)

成長するピッカ美化隊



ピッカ美化隊の活動は九博と地域との「かけはし」となるべく少しずつ成長しているように思えます。

3月25日は電気記念日、九博デー行事の一環として太宰府市、九電・九電工の地元企業と我がピッカ美化隊との合同清掃活動が実現しました。九電・九電工さんは所長さんの陣頭指揮の下10名の作業員の皆さんが高所作業者に乗って24基の街路灯を一つ一つ丁寧に吹き上げました。太宰府市役所の皆さんは井上市長以下10名が我々とともに除草作業と清掃作業を実施しました。馬場区の飯田区長さんも自ら先頭に立って作業され感激しました。国博通りは文字通り上も下も、昼も夜もピッカ美化されました。

終了後は馬場公民館でおにぎりとお茶の昼食、互いに輪になって談笑、九電・九電工さんからは来年も実施し定例化したいとの申し出もあり、来年も実施できたらいいですね。

3月30日には九博ボランティアの終了式に我がピッカ美化隊も招かれ、三輪館長から感謝状をいただき、荒井さんに代表で受け取ってもらいました。

4月7日には昨年も実施された九博の杜づくりの植樹活動に参加し汗を流しました。



私達の活動が徐々に認められ評価されネットワークも広がってきました。九博と地域との「かけはし」に向けて大きく前進していきたいものです。

11月に筑紫台高校の生徒さんとともに植えたビオラが満開です。プランターからあふれんばかりに咲き誇っています。

【第三回例会～九博の三輪嘉六館長の講和・軽食と懇親会・他～】

第三回新年例会は、1月28日（日）太宰府天満宮文華殿を会場に開催されました。あいにくの空模様に出足が心配されましたが、杞憂に終わり60余名の参加者に会場は満員盛況の有様、予定通りに進行して無事終了いたしました。

太宰府市長ほか顧問の方々の祝辞・挨拶を戴き、事業活動など報告が済み、今回は特別に九博の三輪嘉六館長にご出席いただき、“講話”をお願いいたしました。

講話は、館長が日ごろお考えの話題を通して、館と地元との共生、特に“愛する会”との係りについて、これまでの実績と評価、さらに今後の活動に対する期待の言葉を再三にわたり頂戴いたしました。尚“講話の全文”は別稿にまとめ改めて報告したいと考えております。

そのあと別室に移り10数名ずつ5班に別れてテーブルを囲み、軽食をとりながらの懇親会、“愛する会”に寄せるそれぞれの思いや願いを出し合い親睦を深めました。外は相変わらずの冷たい雨が降り続く中、会場内は熱気に満ちた温かい日曜日の午後のひと時でした。

「シモン茶」

九州国立博物館 交流課 元永 行英



シモン茶というのをご存知ですか。コレステロール値を下げる効果があるという理由で、最近にわかに注目されている飲料です。噂を聞きつけた私の配偶者が、コレステロールに悩める旦那を心配して、というよりは世帯主が倒れたときの自分の行く末を案じて、夕食前にこのお茶をせっせと煎れてくれています。こちらもありがたくせっせといただいているのですが、ひとつ困ったことがあります。それは、本

当に安直で申し訳ないのですが、シモン茶を飲む度にボズ・スキヤッグスの「シモン」という曲を決まって思い出してしまい、サビの部分が頭から離れなくなるのです。ボズ特有の甘くけだるい歌声が際限なく流れてくるというのは、何とか本当にも困りものです。でもよくよく考えてみると、日常の中で思いもかけない旋律をふと呼び起こすことって、特別なことではないですよ。同じように、ある旋律が過去の記憶とリンクしていることだってたくさんあるはず。という現象に、どこよりも早く目を着けた九州国立博物館では、「きゅーはく ミュージアムコンサート」というイベントを開始しました。ご存知ないですか？もう50回近くやってるんですけど。毎回いろんなジャンルの曲をお届けしています。紙幅の都合で、ここで詳しく説明できないのが残念ですが、ぜひ一度聴きにいらしてください。その際は、せっかくなのでメロディを脳裏に焼き付けるようにじっくり聴きましょう。そしてある日のこと、聴き覚えのある旋律を耳にした拍子に、青くてうねうねしたガラスの建物をつい思い出してしまい、「今度のお休みにはまた太宰府に行こうかしら。ねえ、お父さん」と嫌がる御主人を巻き込んで九博のリピーターになってくださる奥様方が増えている、という噂はまだまだ聞かないですが、そんな風に博物館の記憶を伴って人々の日常に紛れ込む（こうして書くとは何か怖いんですけど）イベントになればいいなと思っています。どうぞ御最良に。

ところで、気になる「シモン」が収録されているのは、ボズの代表的なアルバム「ミドルマン」です。ウィスキーでも飲みながらちょっと音楽を、というときに個人的に重宝しています。関心のある方はこちらもぜひ。ただし、飲みすぎによるコレステロールの上昇にはお気をつけください。



募集!

次回のリレー随想 募集

採用された方にはご本人のイラスト画(原画)をさしあげます。

なるべく**400字以内**に収めてください。締め切り：**6月20日**

連絡先：090-3414-1599 (佐藤)

編集後記

「未来」とは、子どもたちのこと。物を知る事の楽しさ、人のおこないを学ぶ事の面白さを子どもたちに伝えられれば……。九博にはベビーカーも授乳室もありますよ。